

◆団体基本情報

No.	13	種別	株式会社	団体名	株式会社仙台港貿易促進センター		
所在地		〒983-0001仙台市宮城野区港一丁目1-3					
電話番号		022-388-6710		FAX番号	022-259-6715		
団体ホームページ		http://sendai-port-faz.jp			所管 部局	経済局 産業集積推進課	
代表者職氏名		代表取締役社長 山口 浩徳		設立年月日 平成7年12月4日			
基本財産等		100,000 千円		市の出資額（割合）		32,457 千円 （ 32.5 %）	
設立 目的	各種輸入関連施設の整備を行い、外国貨物の物流高度化・流通促進を図りつつ、仙台港区周辺における貿易を促進することによって、地域経済の活性化及び住民生活の向上に寄与する。						
事業 概要	F A Z 基盤施設（仙台国際港貿易ターミナル）の運営管理とそれに付随する事業						
評価対象決算期		令和7年4月1日～令和8年3月31日					

◆人員等の状況

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
①常勤役員数	0 人	0 人	0 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	0 人	0 人	0 人
②常勤役員平均年齢	0.0 歳	0.0 歳	0.0 歳
③常勤役員平均年間報酬	0 千円	0 千円	0 千円
④職員数	3 人	3 人	3 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	0 人	0 人	0 人
⑤職員平均年齢	56.6 歳	56.6 歳	57.6 歳
⑥職員平均年間給与	4,066 千円	4,075 千円	4,308 千円

◆主要財務データ

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
①営業利益	33,400 千円	32,623 千円	24,030 千円
②経常利益	36,125 千円	35,906 千円	30,286 千円
③当期純利益（税引後）	21,665 千円	23,459 千円	19,862 千円
④繰越利益剰余金	47,494 千円	70,953 千円	90,815 千円
⑤利益剰余金	47,494 千円	70,953 千円	90,815 千円
⑥資本金	100,000 千円	100,000 千円	100,000 千円
⑦純資産	1,432,691 千円	1,456,151 千円	1,476,013 千円
⑧長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆市の財政的関与

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
①市からの補助金	0 千円	0 千円	0 千円
②市からの委託料（指定管理料含む）	0 千円	0 千円	0 千円
③市に対する収入依存度	0.00 %	0.00 %	0.00 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和7年度事業費
仙台国際港物流ターミナル	物流ターミナルの賃貸	59,194 千円
その他事業	社有地（シャーシ用地）の賃貸	3,860 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	国際拠点港湾である仙台塩釜港は、東北地方における広域物流拠点として今後も重要な地域である。仙台港区の機能充実、港湾物流の効率化の推進に向けて、当社の提供するサービスは大きな役割を果たしており、今後も民間企業では実施が難しい分野の事業展開において、当社が継続して対応していく。	仙台港区の港湾機能の充実、港湾物流の効率化に一定の役割を果たしてきており、今後も物流ターミナル賃貸事業等の安定的運営を通じて寄与し続けていただきたい。
2. 業務・組織管理	東日本大震災の津波被害により、受託事業及び県営中野上屋における保税倉主事業の廃止など、事業の縮小を余儀なくされたが、継続する事業の適正な管理、運営、機能維持のために、必要最小限の人員で効率的な業務の執行に努めている。	東日本大震災の津波被害による事業規模の縮小を余儀なくされたものの、今後も事業規模・内容に応じて簡素かつ効率的な組織運営を実施していただきたい。
3. 財務状況	平成24年度のビジネスサポートセンターの売却により経営が改善し、同年度から14期連続単年度黒字である。令和4年の減資により累積欠損金は解消されたが、物価の高騰や最近の急激なエネルギー価格高騰など厳しさを増す経営環境の中、収支の改善を徹底しつつ、老朽化してきた物流ターミナル施設を適切に管理しながら現在の事業を継続し、経営の安定、財務基盤の強化に努めていく。	当面の課題であった累積欠損金の解消等、財務体質改善に向けて必要な施策を実施できている。単年度黒字を継続し、物流ターミナル賃貸事業等を通じた安定的な経営、財務基盤の強化に努めていただきたい。
4. 今後の方向性及び課題	令和8年3月の新国際定期航路開設によりコンテナ貨物取扱量の更なる拡大が期待され、東北唯一の国際拠点港湾として発展する仙台塩釜港の物流の効率化に資するため、物流ターミナル事業等の円滑な運営に努めながら、当面は経営の安定と財務基盤の強化を図る。将来的には経済・事業環境を見極めながら、港湾管理者・関係者等と協議し、経営改善の方策や新たな事業展開等を検討していく。	物流ターミナル賃貸事業等の運営により仙台港の港湾物流の円滑化に寄与いただくとともに、今後も安定的な事業運営に向けて尽力いただきたい。